

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

ことばと社会とココロの関係：  
異体字選好・共通語化・敬語意識の調査データにも  
とづく検討

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-06-25 キーワード: 作成者: 横山, 詔一 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00003407">https://doi.org/10.15084/00003407</a>

# ことばと社会とココロの関係

— 異体字選好・共通語化・敬語意識の調査データにもとづく検討 —

横山詔一(国立国語研究所 言語変化研究領域)

## これまでやってきたこと

言語行動や言語意識(言語生活)の変化予測モデルを作る

### 異体字の好みに関する研究

- 異体字ペアを見せて、使いたい方を選択してもらう(異体字選好調査)
- 「会-會」のデータからは「桧-檜」の結果を予測できない

### 共通語化や敬語意識の変化に関する経年調査データの解析

- 山形県鶴岡市における共通語化調査(1950年, 1971年, 1991年, 2011年)
- 愛知県岡崎市における敬語・敬語意識調査(1953年, 1972年, 2008年)

異体字ペアを見て  
旧字体を選んだ人の割合  
(右は256ペアの一部)

同じ人に、同じ調査を半年後に実施して、一致度をみた再テスト法の結果によると、データの信頼性はかなり高い(横山・笹原・當山, 2006)

☆ゲシュタルト性

「桧」は「木」+「会」ではない

Pair	旧字体選好 %
亜 亞	2.4
壺 壺	74.1
會 會	4.7
桧 檜	71.8
観 觀	0
灌 灌	84.7

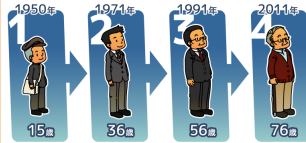
## 1. 山形県鶴岡市における共通語化調査(1950年, 1971年, 1991年, 2011年: 約60年間の実時間研究)

研究の方法その1: トレンド調査  
住民基本台帳からランダムに選ぶ



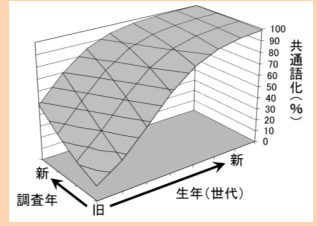
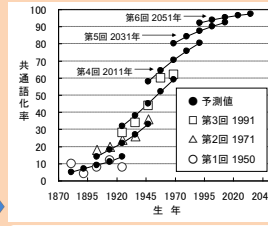
実態をつかむ: 代表性を保証するために必要な方法

研究の方法その2: パネル調査  
同一人物を長期間追跡する



### ← 調査のデザイン

- 1950年から約20年間隔で経年調査を4回実施。
- 毎回、約400名の話者をランダムサンプリングし、面接調査を実施(トレンド調査)。さらに、トレンド調査を受けた話者を追跡調査(パネル調査)。このようなデザインは**コウホート系列法**と呼ばれる。世界を見渡してもきわめて珍しい。同じデザインの調査は、知能の生涯発達を明らかにする目的で1953年に米国で開始された「**シアル・プロジェクト**」だけ。



経年調査の結果の一部

音韻項目207: 非語頭におけるカ行有声化の有無

207



アクセントの変化はどうか? 調査項目の例

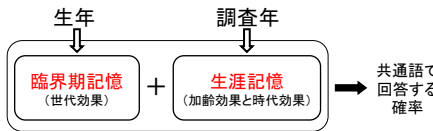
- 203a セナカ (共通語LHH, 方言LHL)
- 207a ネコ (共通語HL, 方言LH)
- 228a カラス (共通語HLL, 方言LHL)

### ↑ 刺激図の例

- 鶴岡調査で用いられた質問項目は、音韻・アクセント、語彙、文法などに関する「言語項目」と、言語行動と言語意識を含む「言語生活項目」から成る。
- そのうち、音韻・アクセントに関する質問で使用した刺激図の一部を上に表示。音韻は31項目、そのうち5項目についてのアクセントのデータも記録された。
- なお、「汗」のように図示が容易でないものは「暑いときに背中をダラダラ流れるのはなんですか?」といったナゾナゾ方式で質問した。

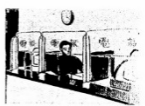
☆1回の調査ではなく、経年的に何回も調査する場合  
言語の生涯習得モデル(横山・朝日・真田, 2008; 横山・真田, 2010)

$$a_1 \times \text{生年} + a_2 \times \text{調査年} + b \rightarrow \text{共通語で回答する確率}$$



## 2. 愛知県岡崎市における敬語・敬語意識調査

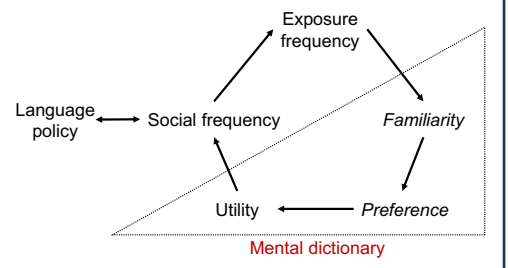
調査で使用された刺激図の一部の例と1953年調査の写真



経年調査の結果の一部(国語研報告書, 1983 など)

- 女性は男性より丁寧。ただし、その差は小さくなりつつある
- 男性の方が場面による使い分けをよくする。女性は場面を通じて丁寧な敬語形式を使い、場面による使い分けが少ない傾向にある
- 加齢に比例する形で、言語表現の丁寧さが増加したり、言語表現が長くなったり、敬語「～ていただく」を多く使うようになったりする。これは「敬語表現の成人後採用」と呼ばれる現象の一種だと考えられている(井上他2016, 井上編2017)

### 言語生活の円環モデル(言語と社会と心理)



- 『社会言語科学の源流を追う』(シリーズ社会言語科学 2: 社会言語科学会刊行) 横山詔一・杉戸清樹・佐藤和之・米田正人・前田忠彦・阿部貴人(編)ひつじ書房 2018年9月
- 『漢字字体史研究 二: 字体と漢字情報』石塚晴通(監修)高田智和・馬場基・横山詔一(編)勉誠出版 2016年11月